

教育委員会だより

特集

町内の感染症の歴史

今、世界では新型コロナウイルスによる肺炎で、多くの人々が亡くなっています。とても恐ろしい感染症ですが、これ以前にも、上ノ国町はもちろんのこと世界は感染症と共に歩んできた歴史があります。

本特集は、本町が歩んできた歴史の中で、特に感染症にスポットを当てて皆様にご紹介させていただきます。

予防を徹底することで、感染症を拡大させずに安心して暮らせることをご理解いただければと思います。

町内で発生した感染症は、明治12年のコレラを発端に、大正9年にスペイン風邪（今のインフルエンザの一種）の流行、昭和14年に流行した赤痢やチフスなどです（年表参照）。

特に大正9年のスペイン風邪の流行は、「上ノ国、北村、中須田、苦符、湯ノ岱にかけて猛威を振るい死者116名」に達しました。この感染症は、3月中旬から4月上旬にかけて感染者を増やし、「その有様は、一家が枕を並べて床につく状況であつたため看病する者もなく、家ごとに孤立した状態となつてしまつた。」ため、多くの死者を出す結果となつてしまいました。昭和24年以降、衛生状態

の改善、病院施設等の拡充を行うことで、予防（感染しない）と治療や隔離（感染させない）を行える状態にし、感染症による死亡率が格段に減ることとなりました（文中の「」は『続・上ノ国村史』より引用）。先人たちの歩んだ歴史を見つめ直して、私たちも今できる予防をしましょう。

「天の川英語塾
featuring
ishsch
oo」の開催
延期について

教育委員会では、小学校2年生～6年生を対象とした「英語を体験する機会の提供と、その学習を支援し、英語に対する興味・関心を育てること」を目的とした英語学習の塾を実施する予定ですが、当面の間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を見送ることと致しました。

今後、開催の目途が立ち次第、あらためて受講者を募集致します。

お問合せ先
教育委員会事務局
生涯学習グループ
0139-55-2230



和暦	西暦	主な出来事
明治12年	1879年	コレラが全国的に発生、檜山各郡において124名がコレラになる。うち完治したのは34名。
明治15年	1882年	コレラが発生し、家々の玄関先に疫病除けののにくや鮑（あわび）を吊り下げる。またコレラ患者の出た家を焼きはらうなどしてとても恐れた。
明治19年	1886年	またも、コレラが発生する。家々は、厄除けの札を掲げるなどしてコレラに感染しないことを願った。
大正 9年	1920年	スペイン風邪（インフルエンザの一種）が流行する。上ノ国、北村、中須田、苦符、湯ノ岱にかけて流行し、死者116名を出す。
昭和14年	1939年	赤痢が北村で発生し、町内に流行する。町内の赤痢による感染者を111名出す。
昭和23年	1948年	散発的に赤痢が発生し、死者10余名をだす。発生の仕方が緩やかで、当初はたちが悪い風邪と認識されていたが、北海道庁より保健衛生の係官が派遣され、調査したところ赤痢であると断定された。
昭和24年	1949年	



スペイン風邪による死者を弔う碑
現在も上國寺にある



「大正九年五月五日大供養
大正九年九月十二日建立…」とある



外出控え 密集回避 密接回避



密室回避 換気 咳エチケット 手洗い

『感染しない！感染させない！』ためにも、
3密避けて、
手洗い・うがいを
しよう！